

## 研修報告書 No.23

研修先： 高北病院

2022年2月の1か月間高知県佐川町立高北病院で地域医療研修をさせていただきました。今まで四国地方に訪れたことが一度もなかったのも、せっかくの機会と思い、高知県での研修を希望させていただきました。

日々の業務としては外来、病棟そして検査室で検査技師さんにご指導いただきエコーを行っていました。

検査室ではグラム染色やチールネルゼン染色を実際に行って、細菌を顕微鏡で見つける作業など行いました。病院で当たり前のように検査をオーダーして、こんなにも地道で大変な作業をさせていただいていることを知らなかったです。検査室の裏側を知ることができてとても良い機会を与えていただきました。

外来見学では糖尿病外来が印象に残りました。佐川町には司牡丹の酒蔵があり、古くから蔵人も多いそうです。飲酒の機会が昔から多いこともあるのか、糖尿病外来には飲酒をしている人も多く通院されていました。また、2月は文旦など柑橘系が旬を迎えていて、近所の方からもらう機会も多いようで、血糖のことを気にされて先生にお話している患者さんもいらっしやり、地域性を感じる外来実習でした。

病棟では指導医の先生の入院患者さんを一緒に担当しました。東京では宅食サービスが比較的充実しているため、サービスを導入して退院という形を見てきましたが、宅食サービス業者数が多いわけでもないため、簡単に導入することはできません。また、治療食に特化してはいないため糖尿病患者の食生活を管理することも難しいそうです。患者の急性期の治療が終わり、退院後の患者の生活をどのようにフォローしていくかの解決策を考えるのが難しい地域医療の現実を学びました。

栄養研修と訪問診療、訪問看護などは私の研修医生活で初めての経験でした。

大学病院では検食の機会がなかったため、初めての検食でした。高北病院の病院食はとても美味しかったです。患者さんの疾患に合った食事それぞれ工夫されていました。検食のほか、褥瘡回診、褥瘡防止で栄養がしっかりとれているか確認するNSTラウンドにも付いて回りました。患者さんがどのような形態であればある程度の栄養を摂取することができるかを医師、看護師、栄養士が話し合っ方針が決まっていき、1人の患者さんに対して細かく栄養管理がされていました。

この研修でもっとも記憶に残ったのは訪問診療です。車で向かう道は竹林の道や田んぼの間の道を進んだりと個人的に毎回とても楽しく、山の景色は絶景でした。普段の外来診療ではお風呂にどのように入っているかを聞くことはできますが、浴室がどのようにになっているかは想像できません。訪問診療では医師が実際に浴室やトイレを見て、どのように生活

しているのかを判断できるので、転倒のリスクも考えやすく、今後の対策も立てやすいと感じました。高齢化社会において、患者さんの生活を踏まえた上で診察をできる訪問診療は必須の診療だと実感しました。また、訪問看護では患者さんはもちろんですが、そのご家族のお話を傾聴されているのが印象的でした。介護しているご家族にとって、最も親しみをもってお話できる訪問看護師さんとの時間は、必要不可欠な時間だと思いました。

佐川町の高齢化率は40%近く、高齢化社会と言われている日本の中でも高齢化が進んでいる地域です。100歳近い患者さんの付き添いも70歳以上のご家族が多かったです。付き添いの方になにかあった時、介護を誰がするのか、緊急で入所の対応ができる施設があるのかなど様々な問題点があると思います。高齢化が進む地域で老老介護問題は今後の大きな課題だと強く感じました。

高北病院では地域の中で先生方、看護師さんはじめ医療スタッフの皆さんが一丸となって1人1人の患者さんに私生活を背景に考えた寄り添う治療をされていたのが非常に印象的でとても勉強になりました。今後の私の医師生活での患者さんとの関わり方に生かしていきたいです。

最後になりますが、指導医の川上先生はじめ高北病院の先生方、事務、医療スタッフの方々、コロナ渦の中暖かく受け入れてくださり本当にありがとうございました。充実した1か月間を送ることができました。コロナが収まりまた高知県に伺えることを楽しみにしております。ありがとうございました。